

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2010年度  
Aコース（スタート助成） 助成事業報告書

2011年 2月 8日

|  |  |
|--|--|
| 団体名（ふりがな）  | アート・インクルージョン in ながまち <sup>じっこういんかい</sup> 実行委員会 |
| 事業名  | 第1回アート・インクルージョン in ながまち（うち助成事業は音楽祭企画）          |
| <p>助成金を使って行った事業について、記述してください。<br/>（活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください）</p> <p><b>◎事業全体について</b></p> <p>2010年11月13日（土）に仙台市太白区長町界限（JR長町駅前広場、駅前プラザ、たいはくくる、ザ・モール仙台長町店、ララガーデン長町、リップルロード、長町遊楽庵びすたへり等）にて「年齢、性別、国籍、障害のあるなし、アートに関する知識やスキルなど関係なく、多くの人に参加出来るアートプロジェクト」をコンセプトとして、大きく分けて以下の3分野の企画を行った。（ホームページ：<a href="http://art-in.org">http://art-in.org</a>）<br/>事前の展示期間も含め、全体で約2500人余りのスタッフ、観客を動員した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーミングアーツ             <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽祭（助成金応募事業）/紙芝居</li> <li>・ビジュアルアーツ（プロジェクトの一ヶ月前より展示）</li> </ul> </li> </ul> <p>笑顔のアート展（小学生、支援学級生対象に公募する絵画展）/ながまち写真展（一般対象公募の写真展）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートワークショップ             <ul style="list-style-type: none"> <li>「どんどこ！巨大紙相撲大会長町場所」（監修：KOSUGE1-16）/ゲルカフェ（作家：村上タカシ）/ききタコ（学生によるワークショップ）/落ち葉でアート（落ち葉を使った造形ワークショップ）</li> </ul> </li> </ul> <p>（前夜祭について）</p> <p>11月12日（金）19時より、LIVE STUDIO RIPPLE に於いて「アート・インクルージョンフォーラム」（第1部）、「アート・インクルージョン パーティーステージ」（第2部）を開催した。</p> <p>第1部のフォーラムではアートによる地域活性化に取り組むアーティストと地元長町の住民によるトークセッション、第2部ではミュージシャンやジャグリングなどのパフォーマーによるステージが行われた。</p> <p><b>◎以下、助成事業である音楽祭について記述する。</b></p> <p>11月13日11時より21時15分まで開催した音楽祭はプロ、アマチュア合わせて全61組から出演申込みがあり、</p> <p>①JR長町駅前広場 ②リップルロード ③長町遊楽庵びすたへり ④ララガーデン長町⑤笠原Lクリニック駐車場の5ヶ所にステージを開設、各ステージに常時MC及び手話通訳ボランティアを配置した。（当初は4会場にステージ設置を予定していたが、出演応募グループ数が多数となったため、1会場増設することとなった。）</p> <p>そのうち障害のある方、外国人、子供、お年寄り等の、いわゆる「インクルージョン（分け隔てなく多くの人を包み込む）」のコンセプトに沿ったグループが計8組出演した。</p> <p>（グループ詳細）</p> <p>子供手話サークルスマイル（手話ソング）/伊達たぬき（よさこい踊り）/TTMJ仙台（ダンス）/Tossins とっしんず（合奏、歌）/「ハッピー・ハーモニカアンサンブル」（ハー</p> |  |

助成金を使って行った事業について、記述してください。(続き)  
モニカ) / 「サインボーカル MATSUMOTO&篠笛 Ambo」(手話ソング、篠笛) / 「鈴木敬次」  
(歌・自作曲) / 「Sol de Misiones」(ワールドミュージック)  
その他、残り53組の一般参加(プロ含む)のアーティストのジャンルは合唱、ピアノ演奏、ポップス、オペラ、ボサノバ、アコースティック、フォーク、胡弓、和太鼓、ロック、ジャズ、歌謡、アーティストのカバーなど多岐にわたる。  
5会場での観客、出演者、スタッフ合計観客動員数は約1500人、各会場に実行委員とボランティアを約5~6名ずつ配置、それぞれの会場に複数の福祉事業所からスタッフとしての参加協力が得られ、各々の利用者と職員が一般、学生ボランティアらと共に観客や出演者の誘導、会場整理、インフォメーション、販売、募金の呼びかけなどを行なった。  
また駅前ステージ周辺には11の屋台が出店し、その内福祉事業所による出店が3店舗、飲食物販売だけではなく県内の福祉事業所を紹介する展示用テント(地域生活・療育支援センター「サポートはぎ」による)も設けられた。  
各会場の様子やインタビューは当日エフエムたいはく、USTREAM(インターネット動画<http://art-in.org>)により生中継された。USTREAMは現在でも閲覧可能である。  
障害のある方々が音楽やアートを楽しみ、かつ表現活動をする場となったこの事業は当日だけでなく、事前の実行委員会やワークショップ、準備作業というプロセスを含め、ボランティア(他地域の住民も含む)、実行委員、観客、出演者、出店者という様々な人が世代や立場を超え出会い、交流し協働する機会となったことが大きな成果であると考えられる。また人通りの多い場所に会場を配置したことで通りかかった誰もが観客となりイベントを楽しみ、街全体が賑わう光景が見られた。

今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか? 具体的に記述してください(人数、関わりの内容、参加者の感想など)

2010年5月に実行委員会を発足、事業当日まで9回の実行委員会、地元商店街を対象にした説明会、各部門別会議(音楽、美術など)を行い、のべ270人の市民が参加した。  
また後援として宮城県、仙台市、長町商店街連合会をはじめ、地元長町の3つの商店街(長町一丁目商店街振興組合、サンカトウール商店街振興組合、長町駅前商店街振興組合)、NPO法人や社会福祉法人7団体(パンフレット参照)の協力を頂いた。  
音楽祭には障害者、留学生、高齢の方を含む81名のボランティアが参加し、出演者は全61組でメンバー総数が約200人、前夜祭のフォーラムではシンポジウムのパネラー、パフォーマー、観客約90人を動員した。  
参加者の感想としては「若者と会う事が出来てよかった」(観客)、「良いイベントだった・ステージを楽しめた」(出演者)、「演奏が各会場ともまとまっていた」「期間を一日だけでなく、もっと長くした方がいい」「ボランティアの数が足りなかった」「ボランティアの役割分担が不十分だった」(実行委員)などが挙がり、反省点と共に次回に向けての課題が見えてきた所である。  
音楽祭以外では、長町駅前プラザで開催した「笑顔のアート展・ながまち写真展表彰式」に受賞者のほぼ全員が出席(作品応募総数は280点あまりで、10月14日からの展示期間には展示会場のララガーデン長町、ザ・モール仙台長町店に作品を出展した生徒や家族連れが多く訪れている)、多数の親子連れで賑わった。  
「どんどこ! 巨大紙相撲大会長町場所」では事前のワークショップに「社会福祉法人わらしべ舎」「社会福祉法人わたげ福祉会」「自立生活センターCIL たすけっと」「就労支援センターほっぷ」の利用者、職員が参加し、障害者やひきこもり・ニートの若者達がモンゴル人留学生の指導の元、段ボールで巨大力士を制作した。当日には更に地元の長町南中学校の生徒達、一般客も参加し、宮城教育大学美術科の学生と造形ワークショップを行い、計17体の力士を作り対戦した。

|   |
|---|
| <p>当初の成果目標はどの程度達成できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●申請書に記載した成果目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の有無、国籍、年齢、分野を超えた人々に表現の場を提供する。またインクルージョン（包括）の場を実際に体験することで障害者への理解を深めて貰う事を旨とする。</li> <li>・長町の商店街活性化とまちづくり</li> </ul> </li> <li>●目標の達成度（自己評価） <p>障害のある方の「表現の場」をサポートすることは勿論、出演者やボランティアスタッフとして準備段階から本番までの間に様々な立場、世代、地域の人々の交流が生まれ、その繋がりは地域づくりの土台となった。</p> </li> <li>●達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。 <p>障害者による出演のないステージが1ヶ所あり、当事業の趣旨（障害者への社会的理解）が上手く伝わらず、コンセプトを理解してもらう工夫が不足したと考えられる。また地元の大型ショッピングセンター（ララガーデン長町、ザ・モール長町店）との連動だけでなく、長町商店街の祭りとの日程が重なるよう当事業を企画し、連携は計れたものの、商店街の方々とのコミュニケーションがまだまだ不十分なところがあった。</p> </li> </ul> |
| <p>今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか。</p> <p><b>(団体の活動への成果)</b>当団体は地元商店街、NPO、市民等から構成されており、自治体、地元の大学とも密接に連携している。主催団体の一つである「NPO 法人ほっぷの森」の内の事業所の一つ「就労支援センターほっぷ」（知的障害者、高次脳機能障害者の就労支援施設）では利用者が事前に事業について調べ、当日の役割分担を自ら考え、一般スタッフと共に働いた。イベント後も事業改善案を考える等、一連の継続的な作業を行う機会を得た。</p> <p><b>(地域社会への効果)</b>長町一丁目から長町南駅エリアにかけ一点ではなく広域に会場を設け多くの観客を動員し、人々の繋がりも踏まえ街づくりの土台を形成した。今後事業を継続していくことによって更なる長町の活性化が見込まれる。</p>   |
| <p>今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。</p> <p>また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。</p> <p><b>(課題)</b> ①長町商店街との更なる強固な連携が必要である。<br/> ②「インクルージョン」のコンセプトが出演者、スタッフ、観客と全体により良く伝わるよう工夫をする。</p> <p><b>(課題解決に必要なもの)</b></p> <p>①次回の事業までに地元商店街の方々へ更に理解を呼びかけ対話をする機会を増やす。また空き店舗を美術作品の展示（当日のみでなく事前から展示期間を設ける）場所として使用し、長町全体に人が流れる仕組みを作る。<br/> 表現・創作活動をする障害者の方々の意見をより多く聞き、コンセプトの明確な表現を考える。年間を通して発表や展示の機会を設けていく（月に一回程度）。</p>   |
| <p>今回の事業を、今後どのように展開していきますか。</p> <p>また、その際に必要なものは何ですか。</p> <p>次回の「第2回アート・インクルージョン in ながまち」は2011年10月15・16日に開催（会期を一日延長）する予定で現在準備を進めている。第1回は「巨大紙相撲」以外の企画に於いて障害のある方の参加が比較的少なかったため音楽祭等、事前に必要と思われるゲストについては前もって出演依頼をすることを考え、それに伴い予算案を作成、助成金の申請も必要である。<br/> 今回の事業では準備作業の段階でも作業人員不足の事態が発生したため、事前に長期間のボランティアを確保し、商店街を表現の場として活用し来客を図ること、また何より事業を継続、定着させることで地域の活性化を目指して行く。</p>   |

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

**収入の部**

| 項目              | 金額（円）   | 内訳 |
|-----------------|---------|----|
| ろうきん地域貢献ファンド助成金 | 200,000 |    |
| 自己負担金           | 301,060 |    |
|                 |         |    |
|                 |         |    |
|                 |         |    |
|                 |         |    |
| 合計              | 501,060 |    |

**支出の部**

| 項目          | 金額(円)   | 内訳             |
|-------------|---------|----------------|
| 音響PA費(機材一式) | 501,060 | 音響機材費×5ステージ分   |
| * 詳細別紙参照    |         | (エフエムたいはくに対して) |
|             |         |                |
|             |         |                |
|             |         |                |
|             |         |                |
|             |         |                |
|             |         |                |
|             |         |                |
| 合計          | 501,060 |                |

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

この度は「アート・インクルージョン」へのご支援、本当にありがとうございました。アートを媒介にして様々な人が事業に参画する、あらゆる立場の人を包み込む「アート・インクルージョン」は継続して行うことで定着させ、その考えを長町から全国、世界へ発信し、最終的には様々な地域で同じ様な主旨のイベントが開催されることを目的としています。

私共の活動はコンセプトを始め、地域の様々な団体の連携、市民ボランティアの参加など、ろうきん地域貢献ファンドが重視する活動であると考えています。助成頂いた成果が直に地域に還元されることは勿論、長町地域を中心にそこから派生していくよう、実行委員会一同これからも精進して参ります。